

令和7年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立桜木中学校) 学校番号 223

【様式】

学 校 教 育 目 標	「溢れる英知 輝く笑顔」 ～学習いっぱい 優しいいっぱい 元気いっぱい～
目 指 す 学 校 像	学ぶ喜びのある学校 生徒の夢をはぐくむ学校 生き生きと活動する学校 保護者・地域とともに活動し信頼される学校

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

重 点 目 標	1 生徒・保護者の期待に応える質の高い教育活動を展開し、生徒の学力と体力の向上に努める 2 生徒が安心して学ぶことのできる誰一人取り残さない教育の実現に努める 3 保護者・地域とともに活動し信頼される学校づくりに努める 4 生徒の学習意欲を喚起し、美しい心を育てる教育環境の整備に努める 5 質の高い教育活動を支える教職員の資質能力向上に努める
---------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番 号	現 状 と 課 題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに良好な結果である。 ○全国学力・学習状況調査において、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の質問に肯定的な回答をした生徒は93.3％と、全国平均78.6％・県平均80.7％を大きく上回った。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語、数学ともに2極化の傾向にあり、基礎・基本で躓いている生徒も少なくない。研究主題である「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることで、「自立した学習者」の育成を目指す必要がある。 ○教科横断的な視点に立ち、探究的な学びの実現を図るカリキュラム・マネジメントを推進する必要がある。	・個々の学力に応じた、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ・教科横断的な視点に立ち、探究的な学びの実現を図るカリキュラム・マネジメントの実施	①「学びの指標」における「主体的な学び」と「探究的な学び」を意識した授業改善 ②新体力テストから学校の体力課題を把握し、体力向上に向けた取組を行う	①「学びの指標」の「主体的な学び」「探究的な学び」において、市平均を0.2pt上回る。 ②新体力テストで課題が見られた種目を再測定し、平均値を向上させる。	学びの質の向上に関する取組			
			①カリマネデザインマップの作成と活用 ②カリマネデザインマップを踏まえた、各教科の年間指導計画の見直し ③学校評価によるカリキュラム・マネジメントの評価と改善	①学期ごとにカリマネデザインマップの進捗の確認と、見直しの実施 ②3月中旬までに、年間指導計画の見直しと、次年度の年間指導計画の作成 ③教職員アンケートにおける「カリキュラム・マネジメントは適切に実施された」の肯定的な回答を80％以上にする。				
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「自分には、よいところがあると思いますか」「友達関係に満足していますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、県平均を大きく上回った。 (課題) ○生徒の自己肯定感が高い結果が出ているが、引き続き、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組づくり。 ○家庭環境の変化による、発達支持的生徒指導による生徒へのアプローチ。	・いじめや不登校に係る事案の未然防止、早期発見・早期支援、再発防止のための組織的な体制づくり ・生徒の声に耳を傾け不安や悩みの早期発見・予防・対応の徹底。	①「心と生活のアンケート」等の教育データや、スクールダッシュボードを活用した子どもの心理の把握。 ②情報端末を活用して保護者向けアンケートや三者面談等の記録を蓄積し、家庭や家庭での生徒一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。	①生徒アンケートの「友だちに思いやりをもって接している。人を傷つける言葉は使っていない（いじめ、差別）」において、「思う」と回答する割合を65％以上とする。 ②保護者アンケートの「学校や教職員の指導は信頼できる」において、「そう思う」と回答する割合を55％以上とする。	子どもの発達や心をサポートに関する取組			
			①教育相談週間の設定や日常の相談活動の充実。 ②教職員の連携による組織的な教育相談の推進。	①生徒アンケートで「先生方は私たち一人一人を大切にしている」と回答する生徒の割合を95％以上とする。 ②教育相談部会の週1回の確実な実施				
3	(現状) ○学校運営協議会で、生徒を地域全体で育てていくことを共有し、コミュニティ・スクールの実施がスタートし4年目を迎えた。 ○全国学力・学習状況調査において、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、県平均を大きく上回った。 (課題) ○本校教育活動の質的向上を図るためのPDCAサイクルが機能するように学校運営協議会の運営をはじめ、地域住民等からの意見を積極的に取り入れるとともに、地域の教育資源の活用する。	・学校運営協議会での熟議を通じた教育活動の質的向上と、地域住民、保護者等との信頼関係の深化 ・子どもが主体的に参画する地域学校協働活動の推進。	①学校運営協議会にて、地域の教育資源を活かした教育活動について熟議する。 ②地域諸団体と連携し、地域教育資源を活用した教育活動を創出する。	①地域の教育資源を活用した教育活動の在り方をテーマとした学校運営協議会を実施する。（各学期1回） ②地域の教育資源を活用した教育活動を実施する。（通年）	地域とともにある学校づくりに関する取組			
			①教育活動を積極的に公開する。「求める生徒像・学校像・教師像」の具現化に向け、学校評価を再構築する。 ②生徒ボランティアの拡充	①学校運営協議会委員、保護者、地域に教育活動を公開する場を年4回以上設定する。 ②生徒ボランティア延べ人数を令和6年度（182名）より増加させる。				
4	(現状) ○桜木サポートルームをはじめ、個別最適な学びに向けた学習環境を整えているところである。 (課題) ○桜木サポートルームのより一層の充実と、生徒からの要望である自習スペースの確保・整備	・個別最適な学びを実現する教育環境の整備。	①生徒・保護者のニーズに応じた桜木サポートルームの運営。 ②生徒の学びたい意欲に応える自主学習スペースの設置。	①学校自己評価に係る保護者アンケートで、「学校は、子どもをよく理解し一人ひとりを大切にして伸ばそうとしてくれている。」の質問に対して「そう思う」と回答する保護者の割合を40％以上にする。 ②学習スペースの設置（通年）	教育環境の整備に関する取組			
5	(現状) ○令和6年度からの学校課題研究『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による、“Well-being”の向上』をテーマに、引き続き研究を進める。 (課題) ○ICTを活用する中でAI等の効果的な利用も含めた、生徒の実態に応じた学びの在り方の研究が必要である。 ○「協働的な学び」や人権教育の充実を通した、相手を思いやり、お互いのよさを認め合う力の育成が課題である。	・AI等も効果的に活用した「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業への転換を目指した授業力の向上 ・教育活動全体をととした計画・組織的な人権教育の在り方の研究による人権意識の高揚	①『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による、“Well-being”の向上』という研究主題で研究を進める。	①市学習状況調査「自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていたか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」で肯定的回答が市平均値を上回る。	教職員のキャリア形成に関する取組			
			①人権教育主任を中心に組織的に研修会を行う。また、関係学校、関係機関と連携した人権研修を行い、本校テーマの「共生」を基に、人権教育の充実を図っていく。	①学期に2回以上、人権教育の視点を置いた授業に関する研修を行う。				